

岡山大学 MONTHLY DIGEST

vol. 122
2026.6



TOPICS

1

「2027年度入学生からの授業料適正化」の方針について

教育研究評議会、経営協議会と役員会での審議を経て「2027年度入学生からの授業料適正化」の方針について決定しました。学生支援策については、現在作成中で、策定次第ご案内します。
詳細については、ホームページをご確認ください。

【資料】

2027年度入学生からの授業料適正化の方針～世界と伍し地域の中核となる研究大学を目指して～

https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/press_r8/press20260625-1.pdf

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15459.html



TOPICS

2

本学津島キャンパスの「岡山大学構内(歩兵隊将校集会所)庭園」が国の登録記念物へ

6月19日、文部科学省(文化庁)に設置されている国の機関の一つであり、国宝や重要文化財、史跡・名勝・天然記念物などの指定や、世界遺産の推薦に関する審議を行う文化審議会は、本学が所有・管理する「岡山大学構内(歩兵隊将校集会所)庭園」を、国の登録記念物(名勝地関係)とするよう、文部科学大臣に答申しました。これにより、近く官報に告示され、正式に登録される見込みとなりました。

那須保友学長は「本学津島キャンパスは、今回の登録施設だけでなく、キャンパス全体が貴重な歴史の舞台としての背景を持っています。来年度にもこれに続く名勝地の登録申請を予定しており、キャンパス全体の文化的価値を連続性をもって高めていく計画です。今後も、貴重な文化財としてこれらを大切に守り伝えとともに、地域の皆さまの憩いの場、そして学生たちの『生きた教材』として、より一層の保存と適切な活用に努めてまいります」と話しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15449.html



Pick up!

台湾の小学校児童が附属小学校を訪問

6月10日、台湾の3校の小学校児童が附属小学校を訪問し、6年生と交流を行いました。

今回の交流は、国立台湾師範大学教授で日台科学教育交流会理事長でもある宋蕙伶教授と元岡山大学教育学部の教員であり、日台科学教育交流会日本側総代表である伊藤敏幸先生からの提案で実現したもので、令和7年5月に両名が本学を訪問した際に、三村由香里理事(企画・評価・総務担当)、菅誠治理事(教学担当)・上席副学長、狩野光伸附属学校機構長、前田潔附属小学校長と話し合い、合意に基づいた交流の一環として行われました。

台湾の3小学校と附属小学校は、これまで2回(令和7年12月、令和8年5月)オンラインによる交流を行っており、今回の来校では、台湾の廣興國小学校、後紅國小学校、新興國小学校の3小学校の児童たちが、6年生の3クラスに分かれて一緒にレクリエーションをしたり、授業に参加したりしました。

今回の交流で附属小学校の児童たちは、台湾小の児童たちとのコミュニケーションを通して大きな学びと経験を得ることができました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15427.html



TOPICS

3

「RYOBI ARENAネーミングライツオープニングセレモニー」を開催

6月16日、両備ホールディングス株式会社と本学のネーミングライツ・パートナー契約締結を記念し、「RYOBI ARENAネーミングライツオープニングセレモニー」を開催しました。

本学におけるネーミングライツは、ネーミングライツ・パートナーにより本学の施設等に愛称を付与することで、当該施設の魅力向上を図るとともに、本学および地域の活性化に貢献し、さらには企業との連携機会の拡大を目的としています。その取り組みの一環として、両備ホールディングス株式会社がパートナー企業となり、第二体育館に新たな愛称「両備アリーナ」が付けられました。

この愛称を広く浸透させ、学生の成長と地域交流の拠点として、本施設をさらに発展させていきます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15446.html

TOPICS

4

スウェーデン・ヴェステルボッテン地域と協力覚書を締結 —持続可能な地域発展とウェルビーイングの 実現に向けた国際連携を開始—



スウェーデン・ヴェステルボッテン地域のリュクセレ市で5月27日に開催された社会開発に関する大規模ワークショップ「Mötesplats Lycksele(ミューテスプラッツ・リュクセレ)」において、ヴェステルボッテン地域と本学は、イノベーション、研究、教育、持続可能な地域開発等に関する協力覚書を締結しました。

調印式での署名は、ヴェステルボッテン地域の地方開発ディレクターであるパトリック・セルストロム氏と、本学の狩野光伸副理事(未来人材創生(SDGs社会共創・DEI・附属学校園)担当)により行われました。本覚書は、両地域が長期的な協力関係を構築し、共同研究、イノベーションシステムの開発、アントレプレナーシップの推進、社会開発における新たな機会の創出を目指すものです。

本学は今後、ヴェステルボッテン地域、ウメオ大学をはじめとする関係機関との連携を深め、地域課題の解決、持続可能な社会の実現、国際的なイノベーション・エコシステムの形成に向けた取り組みを推進していきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15440.html

PRESS
RELEASE

世界初、心不全やパーキンソン病の早期診断へ 新たな画像検査技術を開発 —岡山大学参画の国際共同研究成果が国際学術誌に掲載—

岡山大学学術研究院先鋭研究領域(未来医療創発研究所)の能勢直子助教、樋口隆弘教授(特任)らを中心とする日独国際共同研究グループは、心臓や血管の動きをコントロールする「交感神経」や神経由来の「がん細胞」を画像として鮮明に映し出すための新しい検査薬(PETトレーサー)『[18F]fluproxadine』を開発しました。今回、この検査薬をはじめてヒトに使用し、分布や安全性を調べる研究を神戸市立医療センター中央市民病院(神戸市)で行い、この成果は国際学術誌「*Clinical Nuclear Medicine*」に2026年6月6日に掲載されました。

この技術により、これまで見つけるのが難しかった心疾患やパーキンソン病、あるいは特殊な神経系腫瘍などを、より早い段階で正確に診断できる道が開かれました。今後は病院での実際の診断に一日も早く取り入れられるよう、さらなる研究を進めていきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1558.html

